

思いやりの気持ちを大切に

福岡中学校で人権教室

6月7日、人権擁護委員による「人権教室」が福岡中学校で開催されました。同中の1年生67人を対象に行われたこの教室。人権啓発ビデオを観た後、白石市・蔵王町・七ヶ宿町で活動する人権擁護委員7人が、思いやりの気持ちや命の大切さ、ルールとマナー、暴力やいじめなどを生徒たちに話しました。

参加した生徒は、「いじめている人だけでなく、周りで見ている人も、いじめている人と同じということが分かりました」と話し、思いやる心や命の大切さを真剣に考えていました。



▲「相手の気持ちを考え、思いやりの心を持つことが大切」と話す小野さん

チンゲンサイを白石の特産品に

村井知事が復興現場を訪問

5月22日、村井嘉浩宮城県知事が「みやぎの復興現場訪問事業」の一環で、有限会社蔵王グリーンファームを訪れました。同社は、津波被害を受けた名取市北釜地区のチンゲンサイ農家5人を取締役として受け入れ、市内に160棟のパイプハウスを建築。5人を中心に約30人がチンゲンサイなどを栽培しています。村井知事は、「このケースが、全国のモデルになるように頑張ってください」と呼び掛け、仮設住宅からハウスに通う櫻井久一郎さんは、「白石で生産したチンゲンサイは肉厚でおいしく、白石の特産品に育てたい」と話していました。



▲村井知事（前列左）と笑顔で懇談！

復興支援と子どもたちの環境教育のために

大平小と白石中に太陽光発電設備を設置

5月27日、コカ・コーラ復興支援基金を代表して、仙台コカ・コーラボトリング株式会社の鈴木恭代表取締役社長が市役所を訪れ、太陽光発電設備の設置助成目録を風間市長に手渡しました。同基金は、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島県の公立小中学校への復興支援と、次世代を担う子どもたちへの環境教育の実施を促進するもの。今回は大平小学校と白石中学校への設置が決定。鈴木社長は、「環境教育で、自然の恵みに感謝する気持ちを養い、人々や地域を思いやる、心豊かな人に成長していくことを期待します」と話していました。



▲目録を贈呈する鈴木社長（右）

身近な里山の再生や保全に貢献

NECトーキン「芽吹き森」植樹祭

6月1日、NECトーキン株式会社が、低炭素社会づくりの実現を目指す社会貢献事業の一環として、本社白石事業所近郊の大鷹沢農圃の山林で植樹祭を行いました。同山林は、大鷹沢牧野農業協同組合から借り受けた約2.5ha。この日は、従業員や家族、OBなど約150人がクヌギやコナラ、カツラ、アオダモなどの苗木約千本を植樹。参加者は蔵王連峰の山々を眺めながら丁寧に苗木を植えました。植樹祭は今年で4年目。同社はこの場所を「芽吹き森」と名付け、5年間で計5千本の植樹を計画。来年度で植樹を終える予定です。



▲蔵王連峰の山々を眺めながら植樹を行う参加者

カブトムシで交流を深める

保育園などにカブトムシの幼虫をプレゼント

5月24日、社会福祉法人白石陽光園「生活介護とも」の利用者と職員3人が北保育園を訪れ、カブトムシの幼虫約25匹を贈呈しました。同施設では、地域、人とのふれあいや交流を目的に、園児たちの教育の一助になればと、カブトムシの飼育を平成18年から始め、市内の保育園や幼稚園、小学校などに毎年プレゼントしています。北保育園ではこの日、4・5歳児25人がお出迎え。同施設の職員から飼育するコツや注意点などクイズ形式で説明を受けると、「大事に育てます」と園児全員でお礼の言葉を述べ、興味深げに幼虫に見入っていました。



▲カブトムシの幼虫に興味深げに見入る園児たち

心を癒やす 花で地域を元気に

旭町自治会・子ども会が旭町2公園に苗植え

5月26日、旭町自治会と旭町自治会子ども会の有志46人が、旭町第2公園にマリーゴールドの苗280本とひまわりの苗60本を植えました。この取り組みは、東日本大震災に起因した東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の飛散で、同公園で遊ぶ子どもたちが激減。3月5日、同公園の除染作業が終了したのを機に、同自治会が、子どもたちの笑顔あふれる公園に戻そうと企画したもの。小川昇旭町自治会長は、「花で心を癒やし、子どもたちや地域の人たち楽しんでもらって地域が元気になればうれしいです」と話していました。



▲旭町第2公園の花壇にマリーゴールドなどの苗を植える参加者

「緑のカーテン」大きくな～れ

南保育園の園児がゴーヤの苗を園庭に植えました

6月7日、夏場の保育室の気温上昇抑制と節電を目指して南保育園の園児たちがゴーヤの苗植えに挑戦しました。同園では平成22年度から実施している取り組み。この日は、日差しが強くなる保育室南側と東側のガラス窓にゴーヤが伸びるよう、全長17mにわたって計35本の苗を5歳児22人が「大きくな～れ」と声を掛けながら、1人1本ずつ丁寧に苗を植えました。樋渡佐智子園長は「緑のカーテンで日陰ができると園内の気温上昇が抑えられ、見た目も涼しい。大きく成長してほしいです」と笑顔で話していました。



▲ゴーヤの苗を植える園児たち

薬物の正しい知識を持とう！

白石高校で「薬物乱用防止教室」

6月12日、白石益岡ライオンズクラブ（高橋恵美子会長）主催の「薬物乱用防止教室」が白石高校で開催されました。この活動は、若い世代に薬物に対する理解を深めてもらおうと、同クラブが平成19年から小中学校や高校などで開催。この日は、講師の富岡和弘さんが同校の2年生の生徒や教員など約280人を前に、薬物の種類や特徴、体への影響などを説明。富岡さんは、「少しの好奇心で、大切な人生を台無しにしないで」と呼び掛け、参加した生徒は、「薬物には手を出さないように気を付けようと思いました」と話してくれました。



▲薬物の恐ろしさを話す富岡さん